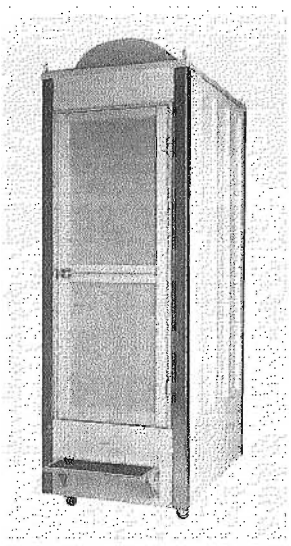
バイオトイレ「べん太郎」
リース中心に営業展開
タク・セツ

㈲タク・セツ（代表取締役原田卓夫）は㈲NS－30研究所と業務提携して、環境にやさしいバイオトイレ「べん太郎」を販売、リース取り扱いを中心に営業を展開している。

同商品は簡易トイレ業界でも高い評価を得ており、①排せつ物をバイオの働きで分解・消滅させ、排水やくみ取りの必要がない②驚異的な処理能力で排せつ物を短期間で分解・消滅させるので、排水やくみ取りの必要がない③バイオの力で排せつ物の悪臭を抑えるのでにおいが気にならない④100V電源さえあれば、どこにでも設置できる－などの特徴がある。また、工事現場や会場など幅広く使用できるスタンダードモデルや観光地や行楽場に使用できる木材を多用したアウトドアモデルなどがあり、中国のSARS隔離病棟でも使用されている。

価格は、スタンダードモデル118万円（幅880㎜×奥行き1610㎜×高さ2800㎜）、アウトドアモデル180万円（幅1150㎜×奥行き1700㎜×高さ2703・2㎜）で、リース（月額4万～4万5000円程度）も取り扱っている。

問い合わせは、㈲タク・セツ（鹿児島市山田町1439－2 ☎099・283・9421）まで。

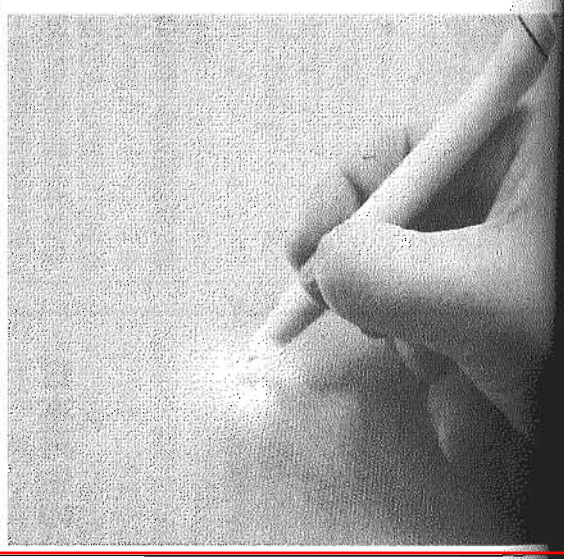

現場等で使用するスタンダードモデル

LED採用ボールペン キャッツアイ
夜間の現場作業に最適

県内において環境測定機器のレンタル業などを展開している鹿児島メディア㈱（板木泰文社長、本社・鹿児島郡吉田町）はこのほど、高輝度LED採用で従来のライトペンよりもさらに明るいボールペン『キャッツアイ』＝写真＝の販売を開始した。

用途例としては、夜間ドライバーをはじめ、警察・消防機関の夜間作業時や建設現場の夜間作業時、セキュリティー・防犯携帯用にと多岐多様にわたることから、利用者から好評を博している。価格は1800円。

問い合わせは、鹿児島郡吉田町牟礼岡1丁目21－7 ☎099・294・8011）まで。



本県関係
交通安全功労者等表彰
川畑、村上氏ら栄誉

全日本交通安全協会はこのほど、東京都千代田区の日比谷公会堂で「第44回交通安全全国民運動全国大会」を開き、交通安全功労者・優良安全運転管理者及び交通安全優良事業所の表彰を行った。

本県関係では、交通栄誉章「緑十字金章」に曽於郡末吉町の川畑勇三氏（川畑建設㈱社長）、同「緑十字銀章」に肝属郡串良町の村上冨士雄氏（鹿屋小野田レミコン㈱社長）が功労者として選ばれたほか、交通安全優良事業所に鎌田建設㈱（鎌田善政社長、本社・国分市）が事業所表彰となった。また、優良安全運転管理協議会に、都道府県で県安全運転管理協議会（会長・藤田正男㈱藤田組社長）、地区で串木野地区安全運転管理協議会（古川司会長）が表彰を受けた。

川畑氏は、安全運転管理者制度発足当初から自ら安全運転者となり社内の交通事故防止に努め、昭和52年に大隅安全運転管理協議会の副会長、平成元年から同協議会会長、同県協議会理事（12年から副会長）に就任し、現在に至る。長年にわたり、地区協議会の組織拡大・安全意識の高揚など、交通安全活動に献身的に尽力するとともに、地域交通安全活動にも先頭に立ち積極的に取り組み、地域住民からも高く評価され、その功績は他の模範である。川畑建設㈱代表取締役。県建設業協会曽於支部長。70歳。

村上氏は、昭和63年、高山地区安全運転管理協議会会長に就任。このほか、串良町商工会会長、県商工会連合会副会長、県生コンクリート工業組合副理事長等を務める。性格温厚にして奉仕精神旺盛で、地区のリーダーとして交通安全活動や交通事故防止活動に先頭となって積極的に参加・推進しており、その行動力・人心掌握力は特筆すべきものがある。鹿屋小野田レミコン㈱代表取締役。68歳。

また、鎌田建設㈱は、昭和48年の事業開始当初から国分地区安全運転管理協議会に加入しており、安全運転管理事業所としてその先駆者的役割を果たすとともに、現在の交通情勢に応じた安全運転管理体制の確立、従業員に対する交通安全教育の推進などを柱としたきめ細かな活動を実施。自主的な安全対策への取り組みを通じて、地域の交通事故防止にも大きく貢献している。従業員約70人。車両52台を保有。

賀詞交歓会

ともに歩める協会へ
日本下水道管渠推進技術協会

日本下水道管渠推進技術協会（木村英徳会長）はこのほど、東京都千代田区の日本海運倶楽部で新年賀詞交歓会を開いた。開会に当たって木村会長は、「多くの情報を提供できるよう、もっと工夫を重ねて会員の皆さんとともに歩める協会にしたい」と語った。

来賓の国土交通省の谷戸善彦下水道部長は、16年度下水道予算について触れ「マイナス5％と厳しい状況だが、事業費ベースではマイナス3％で済みそうだ」と述べた。

また、「推進技術は世界に誇れる分野であり、協会ほど日々深化されているところはない」と技術開発に向けた協会の取り組みを評価。その上で、「できるだけ日ごろから下水道の必要性、緊急性を幅広く訴えていくことが大事」とPRの重要性を指摘した。

挨拶する木村会長

制度改正元年に
日本内燃力発電設備協会

日本内燃力発電設備協会（広瀬定康会長）はこのほど、東京都千代田区のホテルグランドパレスで新年賀詞交歓会を開いた。広瀬会長は「昨年は財政基盤を築くことができた。本年はさらに制度改定元年と思っている」と述べ、自家発電装置の製品認証機関として一層の充実に向けた取り組みを進めていく方針を示した。

来賓の小林恭一総務省消防庁予防課長は、「技術力を生かして、新たな防災体制の整備に尽力を」と呼びかけた。また、青木徹国土交通省建築指導課防災対策室長は、「昨年は地震などが発生し、あらためて防災分野の重要性を再認識する年だった。協会は大きな役割を担っている」と語った。

挨拶する広瀬会長

さらにいい住宅を
プレハブ建築協会

プレハブ建築協会（奥井功会長）はこのほど、東京都港区のホテルオークラで新年賀詞交歓会を開いた。奥井会長は、「今年は、昨年作成した行動計画を踏まえ、さらにいい住宅の供給を使命にしていきたい」と挨拶した。

来賓の松野仁国土交通省住宅局長は、「今後も住宅水準向上のため、がんばっていきたい」とした上で、住宅5計が16年度に最終年度を迎えることから、「ストック対策の比重も高くなっている中で、計画の枠組みの見直しを本格的に進めていく」と述べた。

また、福水健文経済産業省製造産業局次長は、明るさが見えてきた景気を「確固たる成長につなげることを第一の使命にしたい」と語った。さらに、住宅産業界に対しては、具体的に環境、防犯といった「キーワードの住宅」、燃料電池や情報家電と住宅の組み合わせを新たな方向として挙げた。

挨拶する奥井会長

防災への認識深めて
鹿児島

鹿児島市は19日、同市役所市民ギャラリーで「大正3年桜島大爆発写真パネル展」を開き、数多くの写真に市民らが足を止め関心を寄せていた。

同パネル展は、大正3年の大噴火から今年で90年という節目の年にあたり、当時の災害等の模様を写真で振り返るとともに、自然災害の恐ろしさを忘れることなく、日頃の防災に対する備えの重要性を再認識してほしいと開いたもの。

会場では、噴火前後の比較写真をはじめ、溶岩時や被災者に対する炊き出しの様子など、当時の悲惨な状況を物語る写真も数多く展示され、その一主事は「90年前のことなので今の世代では知らない人がほとんど。多発する海外の大地震にも見られるように自然災害はいつどんな規模で起こるか全く予測できるものではない。この写真で当時を思い返すだけでなく、〝災害は身近に潜んでいるものである〟と防災について改めて認識してほしい」と語った。

なお、同展は23日まで開催される。

パネルに見入る市民ら
＝鹿児島市役所で